

笑顔いっぱい花いっぱいの東藤島

東藤島公民館

1 東藤島地区の概要

東藤島地区は福井市の東部に位置し、北は九頭竜川、中心部には藤島城址や林藤島遺跡、東・西の超勝寺、南には原目山や重立山の古墳群など、数多くの旧跡を有している。江戸時代には中ノ郷地区を起点とした芝原用水が造られ、福井城下に上水を供給していた。現在は、芝原用水が農業用水として広く福井平野を潤す他、北野下町にある九頭竜浄水場から市内の約8割の水道水を供給している。このように地区一帯は、九頭竜川の水を活かした豊かな水と緑の田園地帯が広がり、歴史の宝庫である。

地区を通る国道416号線や国道8号線などの交通網が充実し、近年、北陸自動車道や中部縦貫自動車道のインターチェンジも整備されてきた。これにより地区の西部に多くの商業施設が進出し、急速な都市化が進みつつある。その中でも、九頭竜川は地区内外の人たちにとって今も憩いの場であり、整備されたサイクリングロードでウォーキングやマラソンなどを楽しむ人が絶えない。

令和元年9月1日現在、人口は3,784人、世帯数は1,291戸である。

2 まちづくり、ゆめづくり

公民館では、東藤島地区まちづくり推進協議会の「東藤島に住んでよかったと思える地区にしたい」との願いを共有し、様々な活動を共に行っている。

(1) 島根県安来市荒島地区との交流で地区を活性化

平成16年「住みたくなるまちづくり全国交流大会」を契機とし、安来市荒島地区活性化推進協議会と交流をしている。



両地区とも「多くの古墳、豊かな水（宍道湖と九頭竜川）、平野」など地域環境の点で共通点があり、今も、住みよい地区づくりを目指して相互交流を継続している。

平成29年度は、東藤島地区から19名が荒島地区を

訪問し、活動報告会や「古代王陵の丘健康ウォーク」に参加した。平成30年度は荒島地区から8名の方が来福し、荒島地区の取組を劇で発表したり地区の健康ウォーク大会に参加したりして交流を深めた。

平成19年には、東藤島安来節同好会も発足するなど、荒島地区とのふれ合いが地区に根付きつつある。

(2) えちぜん鉄道の沿線と駅を整備し、素敵なまちに

地区内に、えちぜん鉄道勝山永平寺線の駅が3つあり、駅は運転免許証をもたないお年寄りや高校生にとって大切な場所である。



そこで駅環境事業委員会を中心として、駅舎の改装や清掃、本棚の整備、絵・生け花などの展示を行って、親しみやすい駅づくりに努めている。また、駅を中心に地区の活性化を図ろうと駅のパークアンドライド事業を進め、島橋駅には36台分の駐車場を整備した。さらに三世代・男女共同参画事業の一環として、壮年連絡協議会と連携し、線路沿いのフラワーロードの草取りや花壇の整備を行っている。これらの活動を東藤島の「世間遺産」として地区内外に紹介している。

(3) ビオトープを通して引き継ぎたいふるさとの自然

自然に恵まれた東藤島地区ではあるが、近年の開発により地区内の環境が様変わりしつつある。



そこで、懐かしい

田んぼの風景を蘇らせたいと、ビオトープ事業委員会を中心となり、ビオトープや東屋を整備した。地区内を流れる芝原用水を活用したもので、子どもたちの観察や学習の場として、住民の憩いの場として利用できる。また、学校教育田と一体となっていて、子どもたちが田植えや稲刈り・はさ掛けなどを体験したり、生物調査を行ったりできる。

今では、ホテルが飛び交う場所となり、絶滅危惧種

の「イチョウウキゴケ」「ミズマツバ」などを見つけることもできる。また、平成 28 年度からはカブトムシの養殖を始めた。

3 地域に活かす学び合い

公民館では、参加される方が楽しく学び合いつつ、学んだことを地域社会に生かせるような教育事業の企画に努めている。また、地区内でのつながりをもっとつくりたいと、活動の様子を公民館だよりの「学級通信」のコーナーで写真付きで紹介している。

(1) 子どもたちは大切な地区の一員



少年教育講座「なかよしぐみ」では、子どもたちが体験を通して仲間づくりや地区の一員としての意識を高められるよう工夫している。

活動には、ビオトープでの生物調査をはじめ、地区内の花壇に看板を作るアート教室「看板に絵をかこう」や、祖父母世代と一緒に「風鈴づくり」などを組み込んでいる。

子どもたちが、地区に還元できるものを作ったり、地区の方と交流したりする活動を通して、地区への親しみを深めることを期待している。

(2) 学び合い、つながり合い

ボランティア促進の「おもてなし講座」は、東藤島地区の花いっぱい運動を継続し、きれいな花でのおもてなしを意識した講座である。



サルビアやメランポジウム、ジニアなどの種蒔き、土づくり、花壇づくりを行っていて5年目を迎える。花壇アドバイザーを講師に迎え、学びながら「仕事は大勢で」を合い言葉に活動している。

また、「タオルケア帽子作り」は、抗ガン剤の副作用で脱毛に悩む患者さんに使ってもらおうと、フェイスタオルから手縫いで帽子を作る講座である。作りながら患者さんを取り巻く状況なども聞き、みんなで工夫しながらボランティア活動に取り組んでいる。

その他、地域課題の「四季折々楽(がく)」では、一緒に五感をフルに使おうと月 1 回、季節を感じる「楽

習会(がくしゅうかい)」を行っている。これまで、地区の方から手品を習ったり、そば打ち名人からそばの打ち方を教えてもらったりした。また、防災士の資格をもつ方から、防災に役立つ布草履の作り方も学んだ。今年は、母の日に合わせてカーネーションを飾ったフレームづくりや、夏の日焼け対策として効果的なハーブを使った化粧水づくりなど、季節に合った内容で開設している。その際、できるだけ地区の人材を講師として活用できるよう工夫している。

高齢化社会を迎える今、このような講座を通して地区内でのつながり合いを進めていきたいと考えている。

(3) 地区の誇りを後世に

西超勝寺は岡倉天心の先祖の菩提寺である。この縁から、地区では岡倉天心福井県顕彰会と連携し、近代日本美術界を牽引した天心を偲び、その偉業を遺し伝える活動を行っている。



毎年、天心の命日の9月2日に西超勝寺で「天心忌」を行っていて、そこに東藤島小学校の児童も参列し天心の功績をたたえる「誓いの言葉」を述べている。また、児童や地区民を対象とした学習会「岡倉天心を知ろう」を開設し、その功績や彼の越前人としての誇り、生き方などを学び合い、地区内で伝えている。

4 終わりに

東藤島地区は水と緑に恵まれ、交通の便もよく住みよい地区だが、近年、少子高齢化の波が押し寄せ人口が減少してきている。今、このような地区をどう活性化していくかが大きな課題となっている。

公民館では、まちづくり推進協議会を軸に将来に向けての方策を検討し実行に移さなければならないと考えている。地区民がいつまでも東藤島地区に愛情をもって住み続けたいと思えるように今後も努力していきたい。

歴史ある史跡や豊かな自然、温かい人のつながりにあふれる東藤島地区。大切なものを守りつつ、未来に向けて学び合って活動しておられます。今後も、花と笑顔にあふれた住みよい地区としてさらに発展されることを願っています。